

セメントと小野田

(提言書あとがきより)

わがふるさと小野田は、笠井順八氏によって、明治14年(1881)に、わが国最初の民営のセメント会社が設立され発展した町である。かつては住吉町・昭和通り・丸河内に多くの職員住宅があったが、時代の変遷とともにその影は薄れ、残されているものは、セメント町という町名と住吉神社・セメント山手倶楽部(この建物は4代社長の笠井真三氏が欧州留学の帰途、英国から持ち帰ったコンクリートブロックの型枠を使って大正3年に建てられた)と住吉社宅のみとなった。住吉社宅は、大正13年に建てられ、赤瓦の五軒の社宅は、小野田で最もモダンな建物であった。

その東に位置する住吉神社は、セメントの鎮守様として祭られ、当初祭礼は、笠井順八氏の誕生日の5月31日に行われ、境内と東住吉町、昭和通、西住吉町の通りに屋台が建ち、多くの人出で賑わった。昭和23年からセメント会社創業記念日の5月3日にとりおこなわれるようになった。

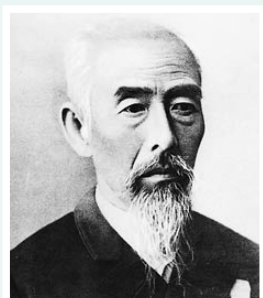
住吉神社の境内には、順八氏がお世話になったとして、67代 毛利敬親公たかちかを祭った毛利忠正公たかちか霊社がある。

昭和30年に小野田御立山おたてやまの中心に、中川為延作なかがわためのぶの順八像が作られた。

古い建造物は、徳利窯とっくりがま、昔の本社事務所、コンクリート造りの工場群は保存に値するものであろう。

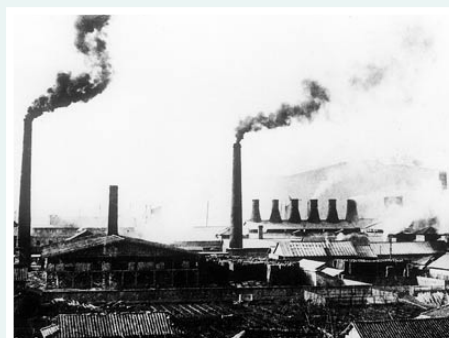
また、順八氏が明治32年に創業した小野田銀行は、大正12年に百十銀行と合併し、後に山口銀行となった。その名残の建物は、住吉本町二丁目4番17号(本町)に、山手倶楽部と同じセメントブロックの建物として残存している。(現在は山口銀行の倉庫として使われている)また、若山公園には、男爵 野村素介書そすけの笠井翁しょうとくひの頌徳碑もある。

願わくは、町並み保存としてセメント住宅、およびこの一連のものを、小野田発展の遺産として後世に残したいものである。



笠井順八翁

明治14年にわが国最初の民間セメント会社(現太平洋セメント株式会社)を設立。近代小野田発展の礎を築く。名誉市民。



小野田セメント株式会社

明治30年頃。中央の煙をあげる煙突の向こうに6体並んでいる徳利窯が確認できる。



【国重要文化財】小野田セメント徳利窯

国内に唯一現存するセメント焼成用竪窯として、歴史的価値の高い遺構。



【国有形文化財】小野田セメント山手倶楽部

珍しい大正時代のブロック建築。建築史上にも貴重な建物。